

当院では、電話診療で睡眠時無呼吸症候群の診断、治療をはじめました。

睡眠時無呼吸症候群はありふれた疾患にも関わらず、自覚症状が乏しいためそのほとんどが放置されております。

ほおっておくと生活習慣病の原因になるのみならず、**心筋梗塞**や**脳梗塞**といった命に関わる病気にも繋がります。

また、車の運転をする方にとっては事故率の上昇につながるため、ご本人だけの問題にとどまりません。



これまでは、診断、治療のため専門外来への受診が必要でしたが、コロナ渦において特例でオンライン診察での初診が可能となりました。

診断のための検査装置も郵送しますので、入院することなくご自身で検査を行うことが可能です。保険適用の伴う睡眠時無呼吸症候群と診断された際には、**CPAP**と呼ばれる睡眠時無呼吸症候群の治療装置をご自宅までお持ちし、使用方法をご説明します。

その後のフォローアップも遠隔モニタリングによって行い、設定の変更も遠隔で可能ですのでいつでもご相談ください。



診察をご希望の方は一度ご連絡ください。

電話： **072-875-0100 (代)**

※お支払い方法は後日窓口もしくは現金書留でお願いします。

睡眠時無呼吸症候群外来（電話診察）の担当医師

- 所属 : 内科 ・ 精神科
- 資格 : 総合内科専門医 ・ 循環器専門医 ・ 精神科専門医

林 紀行（はやし のりゆき）

睡眠時無呼吸症候群とは

睡眠時無呼吸症候群とは、主に睡眠中に空気の通り道である“上気道”が狭くなることによって無呼吸状態（10秒以上呼吸が止まること）と、大きないびきを繰り返す病気のことです。



成人男性の3～7%、成人女性の2～5%程度に見られる比較的頻度の高い病気ですが、睡眠中の無呼吸やいびきによって良質な睡眠が妨げられ、日中の眠気による事故などにつながりやすいことが大きな問題となっています。また、睡眠中に体内の酸素量が不足しがちになることで全身のさまざまな部位に負担をかけ、心筋梗塞や脳卒中など命に関わる合併症を引き起こしやすくなることも分かっています。



主な原因は肥満による喉周りの脂肪ですが、顎が小さい、舌が大きい、扁桃が大きいといった生まれつきの身体的特徴や慢性的な鼻炎など耳鼻科領域の病気が原因となることもあります。

